

新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアアンケート 第3回調査結果

1 実施概要

(1) 調査の趣旨

新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、児童生徒は自宅で多くの時間を過ごすことになった。学校再開に伴い、感染症への恐れや学校生活への不安、保護者のストレスから虐待を受けているケース等、心理的ストレスを抱えている児童生徒が存在すると考えられる。

そこで、これから長期間にわたる新型コロナウイルスへの対応が想定されることから、精神的に不安定な状況にある児童生徒の状況を把握し、その心の理解とケアへの取組に資する。

(2) 調査実施期間

第1回 令和2年7月13日～31日

第2回 令和2年9月14日～10月30日

第3回 令和3年1月19日～2月5日

(3) 調査対象

①児童生徒

| 校種 | 学校数 | 児童生徒数（第3回） | 備考 |
|--------|-----|------------------------------------|--|
| 小学校 | 48 | 16,847 | 神戸市16校 ・小学校8校、中学校8校 他各市町2校抽出 ・小学校：1校、中学校1校 |
| | | 低学年（1～3年） 8,301 高学年（4～6年） 8,546 | |
| 中学校 | 48 | 16,904 | |
| 高等学校 | 60 | 6,133 | 60校抽出 ・全日制：51校、定時制：9校 |
| 特別支援学校 | 10 | 677 | 10校抽出 ・小・中学部、高等部のある特別支援学校：8校 ・高等部のみの特別支援学校：2校 第2回より、新たに実施 |
| | | 小・中学部 248 高等部 429 | |
| 計 | 166 | 40,561 | |

※小・中学校、高等学校は、第1・2回と同じ児童生徒を対象に実施

特別支援学校は、第2回より同じ児童生徒を対象に実施

(4) 調査の内容

| 大項目 | 小項目 |
|------------------------|--------------------------|
| ① 新型コロナウイルス感染症への理解について | 3項目 |
| ② 心とからだのストレスについて | 5項目 |
| ③-1 毎日の生活について | 9項目 (小学校3年生以下は4項目で実施) |
| ③-2 ゲーム・SNSの使用時間について | 1項目 (小学校4年生以上で実施) |

2 調査結果と分析

(1) 調査結果の概要

- ストレスを抱える児童生徒の割合については、1回目の調査（7月実施）、2回目（9-10月）の調査と比較して、大きな変化が見られない。
- 新型コロナウイルス感染症への知識やストレスへの対処法については、1回目の調査から、徐々に肯定的な回答が増加している。
- 3回の調査結果ともストレスの高い（低い）状況が続いている学校がある。（ストレス状況の固定化）

① 新型コロナウイルス感染症への理解について

- ・すべての質問項目で、「よく知っている」と回答した児童生徒の割合が増加している。

② 心とからだのストレスについて

- ・「むしやくしゃしたり、いらいらしたり、かっとしたりする」の質問では、全ての校種で、「ない」と回答した児童生徒の割合が増加している。

③ 毎日の生活について

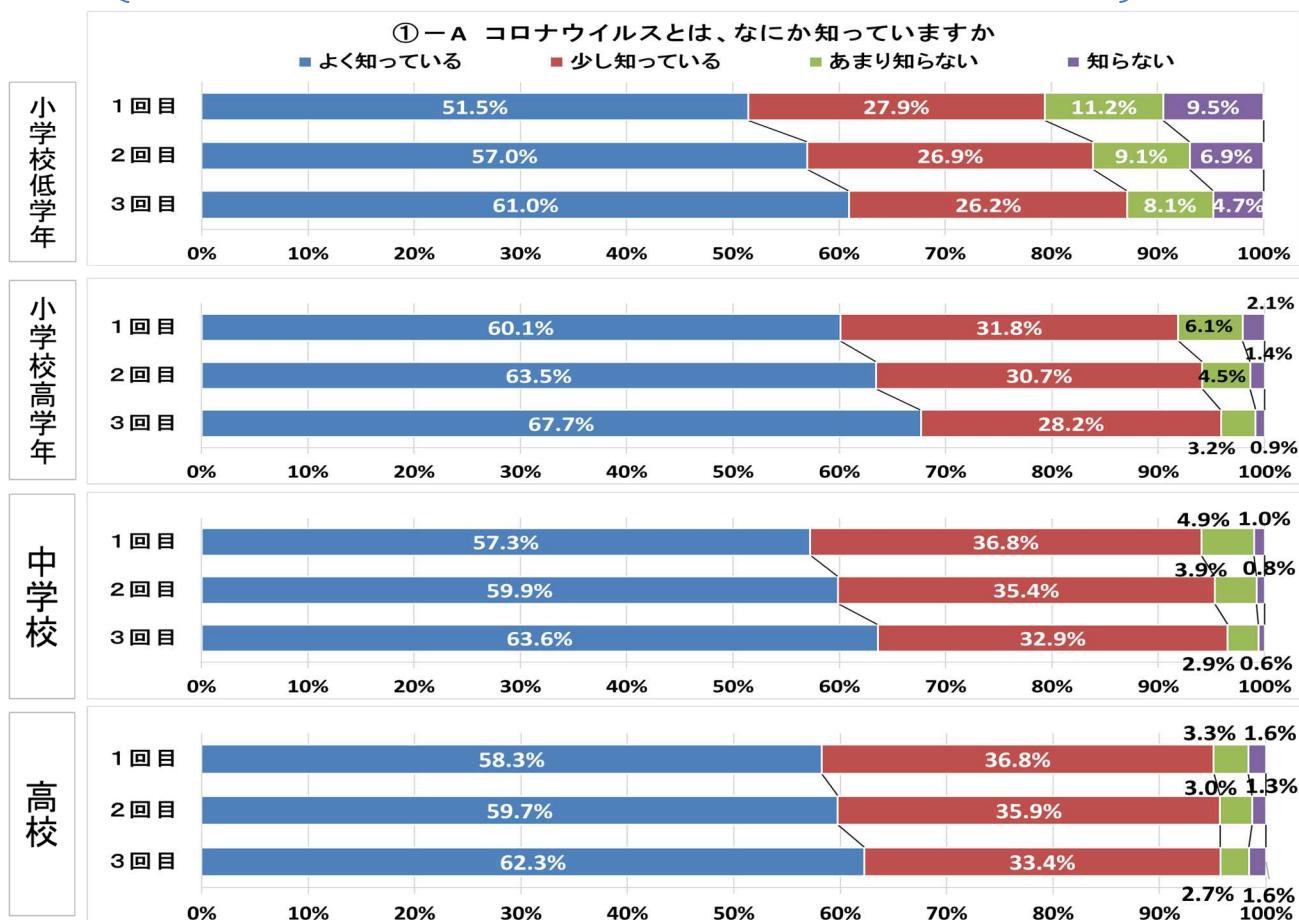
- ・「リラックスする方法を知っていて、実際にやっている」「困ったことがあったとき、人に助けを求める」の質問では、すべての校種で肯定的な回答（あてはまる・少しあてはまる）が増加している。

(2) 小項目ごとの児童生徒の回答状況（1回目・2回目との比較）

ア 「① 新型コロナウイルス感染症への理解について」（3項目）

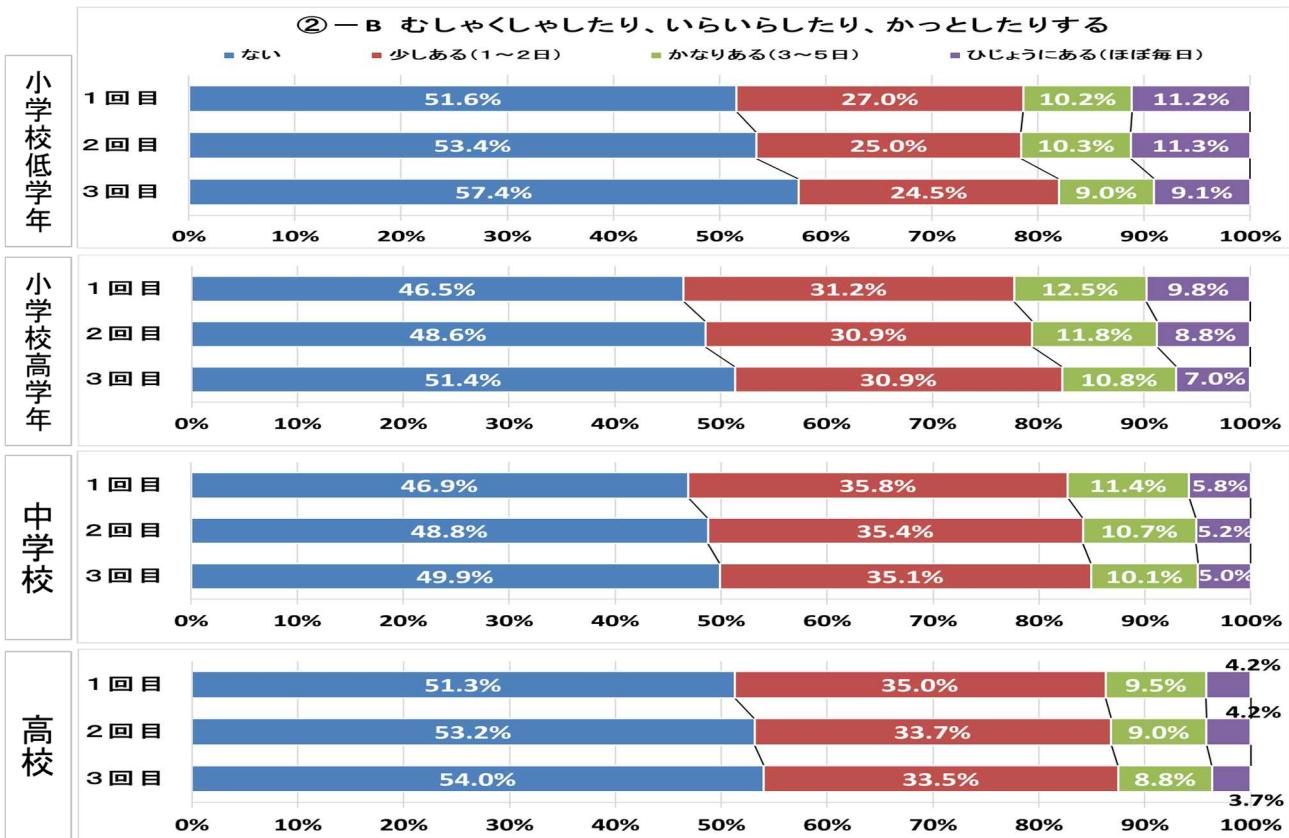
- ・「コロナウイルスとは、何か知っていますか」の質問に対して、「よく知っている」と回答した児童生徒は、すべての学年で増加している。

〔 小学校低学年 61.0% (+5.5→+4.0)、高学年 67.7% (+3.4→+4.2)、
中学校 63.6% (+2.6→+3.7)、高校 62.3% (+1.4→+2.6) 〕



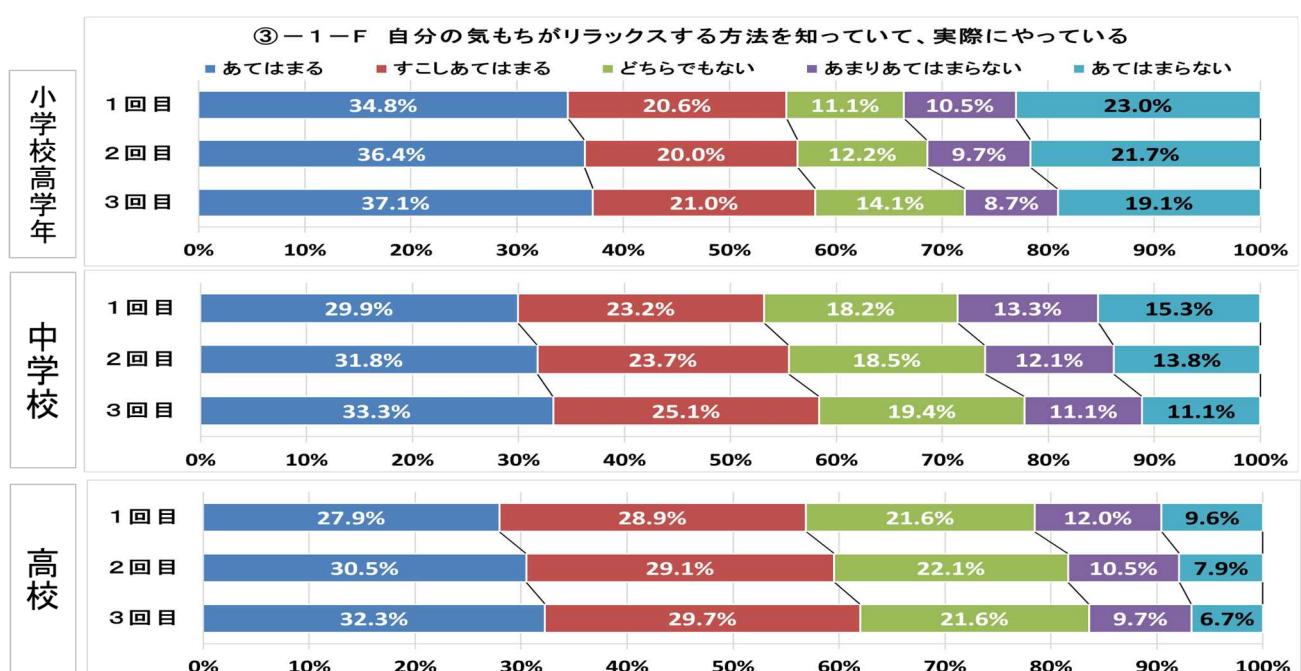
イ「② 心とからだのストレスについて」(5項目)

- ・「むしやくしゃしたり、いらいらしたり、かっとしたりする」の質問に対して、「ない」と回答した児童生徒の割合は、すべての校種で引き続き増加している。
小学校低学年 57.4% (+1.8→+4.0)、高学年 51.4% (+2.1→+2.8)
中学校 49.9% (+1.9→+1.1)、高校 54.0% (+1.9→+0.8)



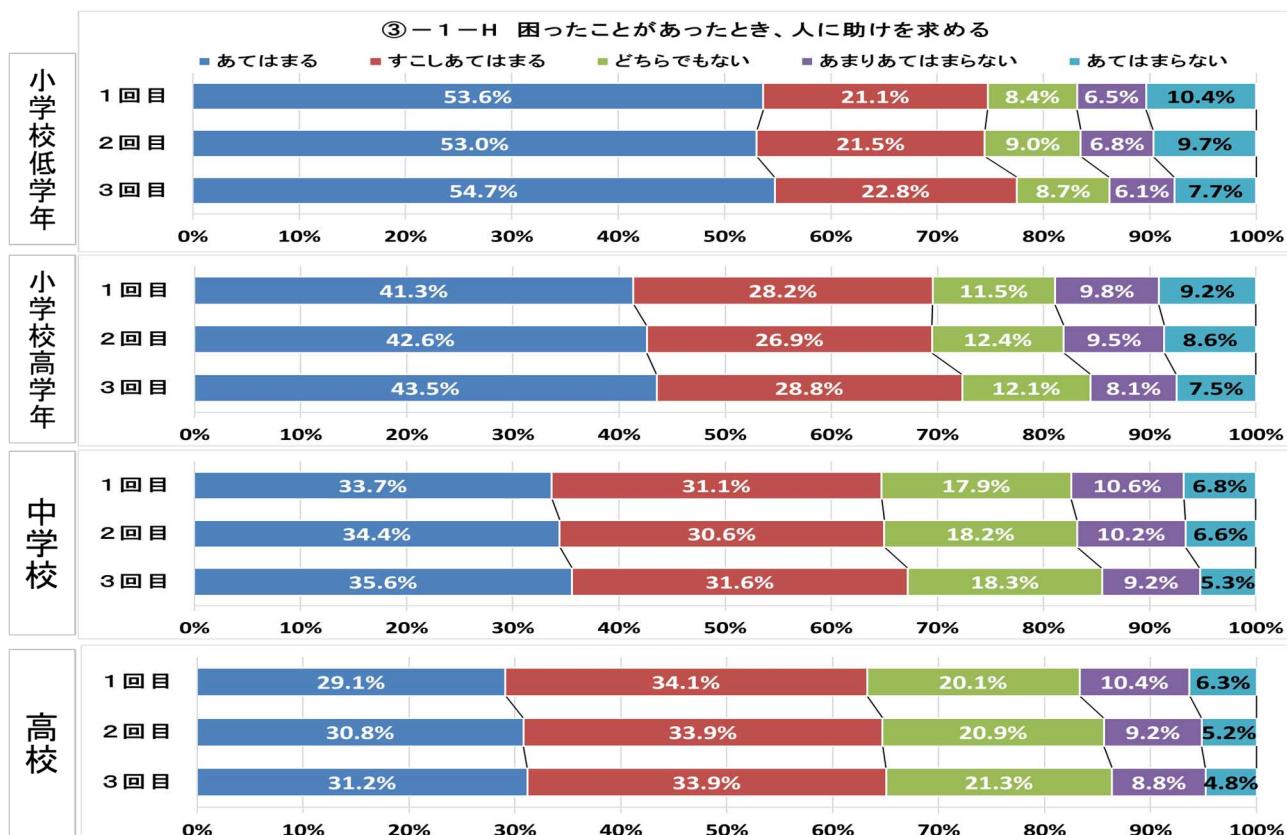
ウ「③-1 毎日の生活について」(小学校3年生以下:4項目、4年生以上:9項目)

- ・「自分の気持ちがリラックスする方法を知っていて、実際にやっている」という質問で「あてはまる」と回答した児童生徒の割合は、すべての校種で引き続き増加している。
小学校高学年 37.1% (+1.6→+0.7)、中学校 33.3% (+1.9→+1.5)
高校 32.3% (+2.6→+1.8)



・「困ったことがあったとき、人に助けを求める」という質問で、肯定的な回答（あてはまる・少しあてはまる）と回答した児童生徒の割合は、2回目の調査から、すべての校種で増加している。

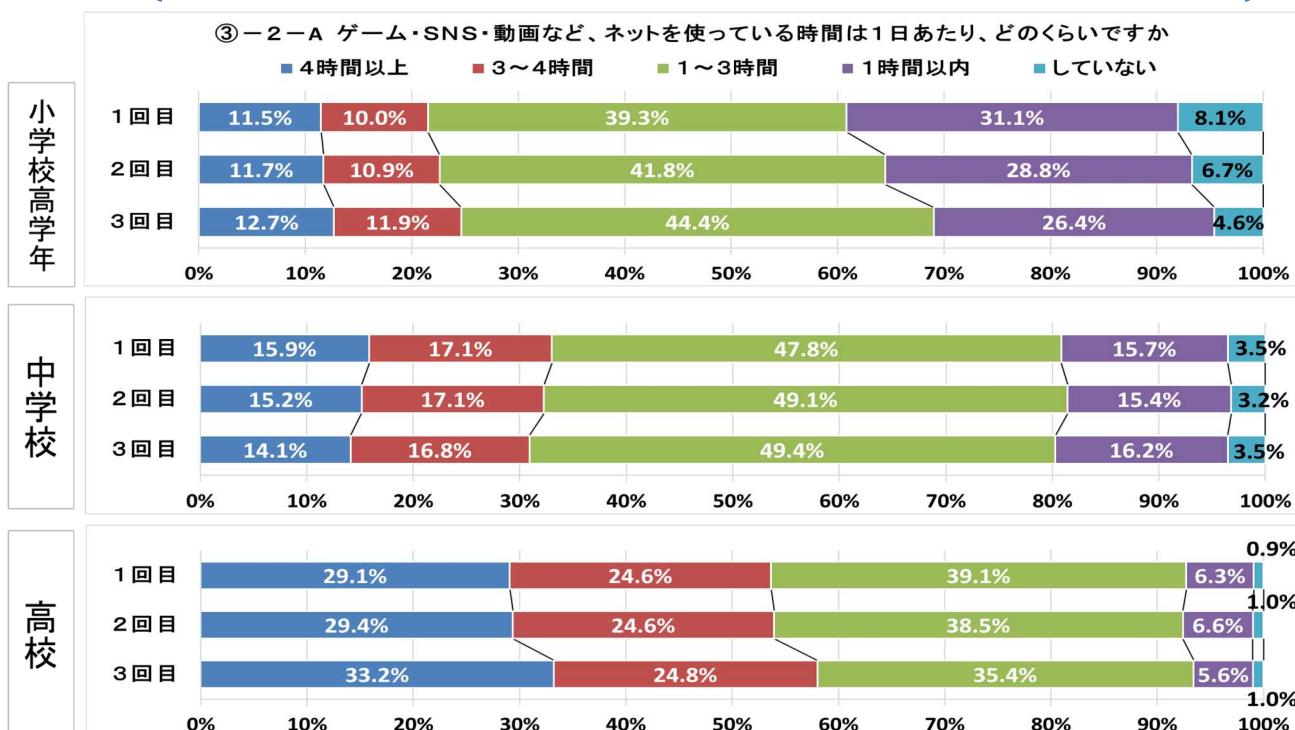
〔 小学校低学年 77.5% (+3.0)、高学年 72.3% (+2.8)、中学校 67.2% (+2.2)、高校 65.1% (+0.4) 〕



エ 「③-2 ゲーム・SNSの使用時間について」(1項目) (小学校4年生以上)

・「1日あたりのゲーム・SNS・動画などネットを使っている時間」の質問で、3時間以上使用している児童生徒の割合は、小学校と高校で増加している。

〔 小学校高学年 24.6% (+2.0)、中学校 30.9% (-1.4)、高校 58.0% (+4.0) 〕



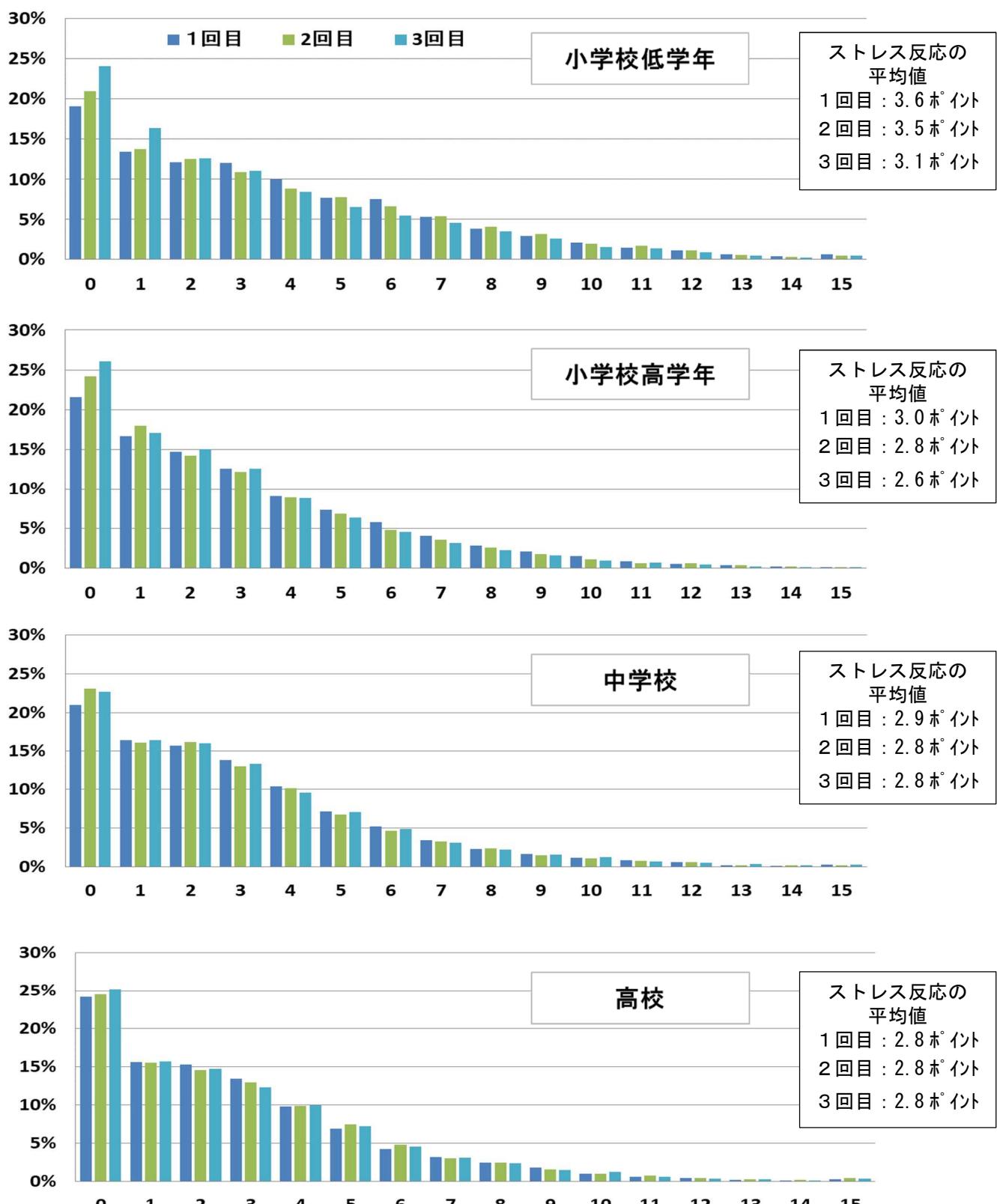
(3) 「心とからだのストレスについて」(5項目) 合計ポイントの分布状況

ア 1回目・2回目との比較

- 「心とからだのストレスについて」(5項目) の合計ポイントの分布状況に大きな変化はない。

心とからだのストレスに関する項目(5項目)の合計分布

5項目〔ない:0 少しある(1~2日):1 かなりある(3~5日):2 ひじょうにある(ほぼ毎日):3〕の合計ポイントの分布(0~15ポイント)※5項目の合計15ポイント(3ポイント×5項目)



イ 学校別の状況

小・中学校の1回目から3回目において、ストレス反応の高い学校（10校）と低い学校（10校）の状況を見ると、3回ともあてはまっている学校がある。

| ストレス反応の平均値の状況 | 小学校 | 中学校 |
|-----------------|-----|-----|
| 3回ともストレス反応の高い学校 | 2校 | 3校 |
| 3回ともストレス反応の低い学校 | 6校 | 5校 |

3 これまでの対応策

- 新型コロナウイルス感染症への正しい知識、差別や偏見につながらない授業、ストレスへの対処法を学ぶ授業等の特別授業の継続実施や個別相談等の充実
 - ・発達段階に応じた具体的な取組・授業展開例の周知
 - ・心のケア支援員を12月より10市町に拠点配置
 - ・スクールカウンセラーの配置時間を増加
- 差別や偏見につながらない授業や児童生徒の心のケアについて、家庭と連携した取組の周知
 - ・心のケアに関する保護者向け啓発チラシの配布（小・中学校、特別支援学校）

4 今後の対応

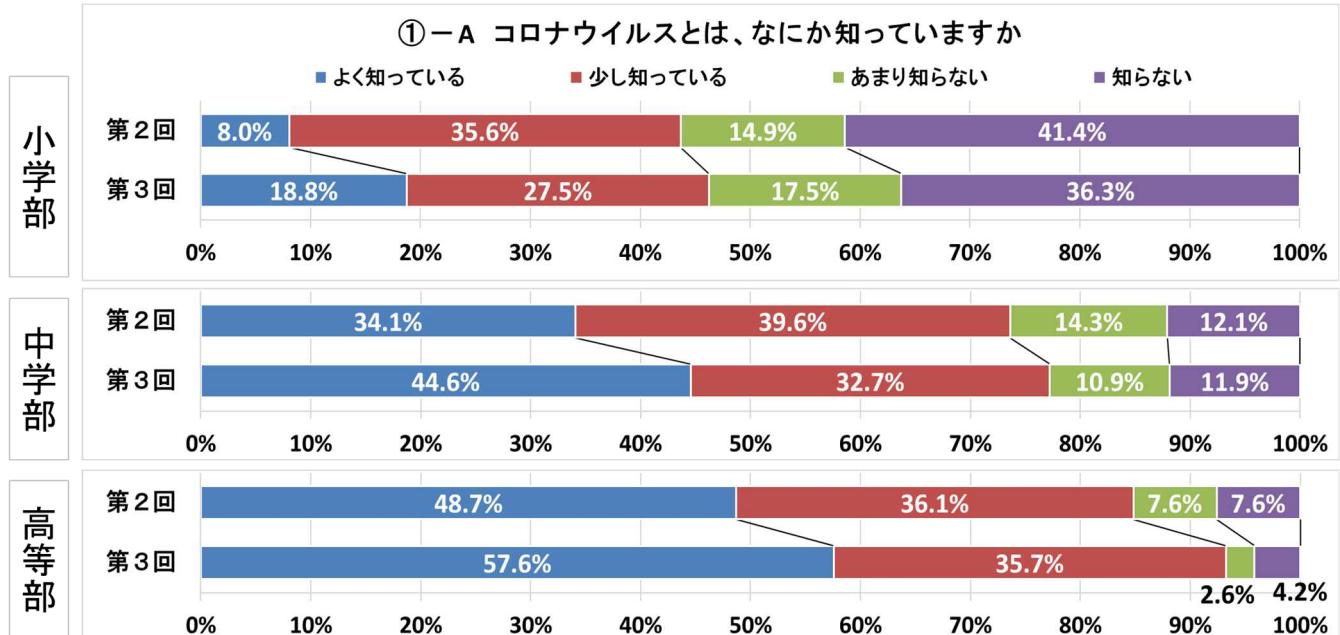
新型コロナウイルス感染症の影響は、徐々に薄れてはいくものの、引き続き児童生徒の心のケアの充実を図っていく。

- 新年度に向け、ストレスを抱える児童生徒が一定程度存在することを前提に、支援体制や児童生徒の状況等の引き継ぎを図り、継続して取り組んでいく。
- 引き続き、学校における児童生徒のストレス状況の変化等、些細なサインを見逃さないよう、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関等との連携の充実を図る。
 - ・新型コロナウイルス感染症への正しい知識、差別や偏見につながらない授業、ストレスへの対処法を学ぶ授業等の特別授業の実施や個別相談等の充実を継続
 - ・自分の悩みやストレスを身近な大人等、他者に伝えることができる力の育成に向けた取組の工夫（発達段階に応じたソーシャルスキルトレーニングの実施等）
 - ・心のケア支援員の拠点配置を12市町に拡充
 - ・心のケアに関する効果的な取組、支援体制等を指導実践事例として周知
 - ・GIGAスクール構想による一人1台端末の整備状況により、タブレットを使った児童生徒のアンケート入力や分析の効率化を図るなど、ICTの活用について周知

【参考】特別支援学校の状況

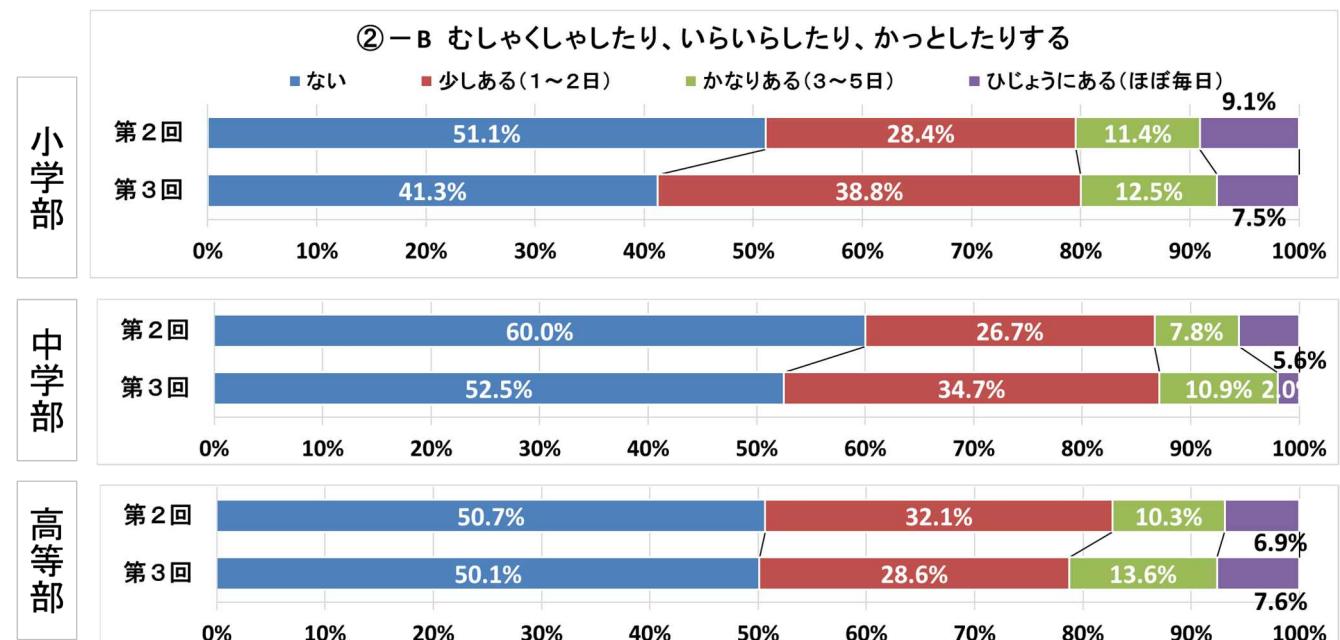
1 「① 新型コロナウイルス感染症への理解について」

- ・小・中学校、高等学校と同様、「よく知っている」という回答が増加している。



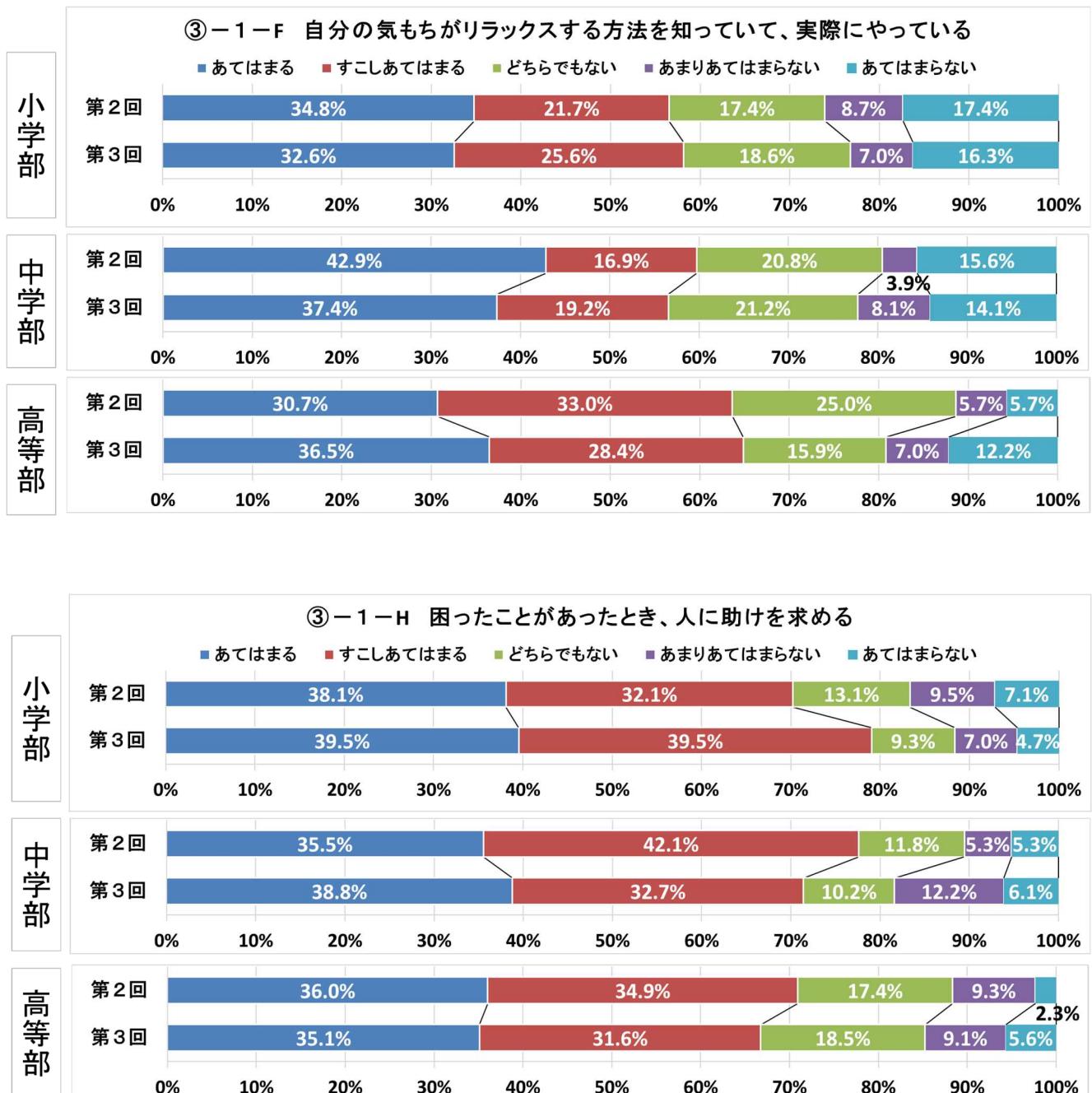
2 「② 心とからだのストレスについて」

- ・「むしやくしゃしたり、いらいらしたり、かっとしたりする」の質問に対して、「ない」「少しある（1～2日）」と回答した児童生徒の割合が、高等部で減少している。



3 「③-1 毎日の生活について」

- 「自分の気持ちがリラックスする方法を知っていて、実際にやっている」「困ったことがあったとき、人に助けを求める」という質問で肯定的な回答した児童生徒の割合が小学部ではどちらも増加しているものの、中学部では、どちらも減少している。



4 「③-2 ゲーム・SNSの使用時間について」

- 「1日あたりのゲーム・SNS・動画などネットを使っている時間」の質問で、3時間以上使用している児童生徒の割合は、小学部と中学部で増加している。

